日本語教師の「養成修了段階」における授業実践能力の分析

富谷　玲子／門馬　真帆

神奈川大学日本語教員養成課程では国内外に数多くの優秀な日本語教員を輩出している。優秀な日本語教員であっても、卒業直後のキャリアスタート時には大きな困難を抱え、それぞれの教育環境の中で独力で困難を克服していったということが課程修了者から報告されている。キャリアスタート時の困難は日本語教師にとって、「通過儀礼」ともいえるものであり、その困難は本学の養成課程の精度のみに起因するものではなく、そのように考えることは日本語教師教育の大きな問題の矮小化につながる。

養成段階では「日本語」という言語の仕組み、外国語教育の方法論、日本語教育を取り巻く世界情勢などの知識を獲得させ、さらに日本語教育実習を通して日本語教育現場での実践を体験させることが目標とされる。一方、日本語教師としてキャ

リアスタートする際には、たとえ初心者であっても、教室活動に必要十分な教授能力が期待される。養成修了段階の目標達成とキャリアスタート時の必要十分条件の間にこのようなギャップがあることは広く知られているが、そのギャップを乗り越えるのは「初任日本語教師」の個人的努力に任されていた。

現在、このギャップを埋める方策が模索されている。もちろん、日本語教師を雇用する日本語教育機関での初任者研修の開発と実施が必要不可欠ではあるが、養成課程においても教育実践能力のために教育内容の充実をはかることが可能なのではないかと考えた。本研究は、後者の実現のための基礎研究である。

2021年度は、初任者がどのような困難に直面し、どのようにしてそれを克服していったのかについて、中堅日本語教師を対象として実施して調査結果の分析を行った。また、調査技法に関する検討を行った。

本研究は3年計画である。2022年度・2023年度は、上記調査の手法を確立し、調査を実施し、得られたデータを分析する予定である。さらに、学内の現在の日本語教員養成課程の教育内容について精査し、養成課程修了段階で習得すべき日本語教育の実践能力の水準について具体的に記述することを目指す。